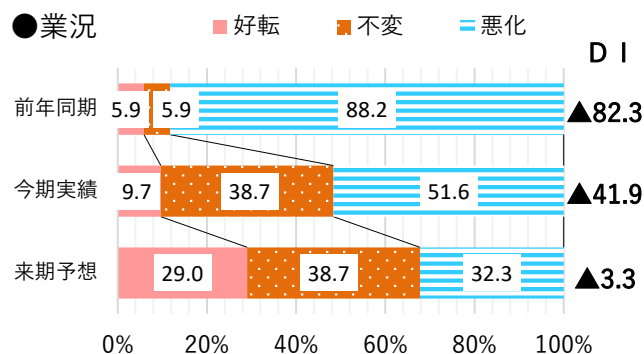


# 観光業

## 業況、売上、採算

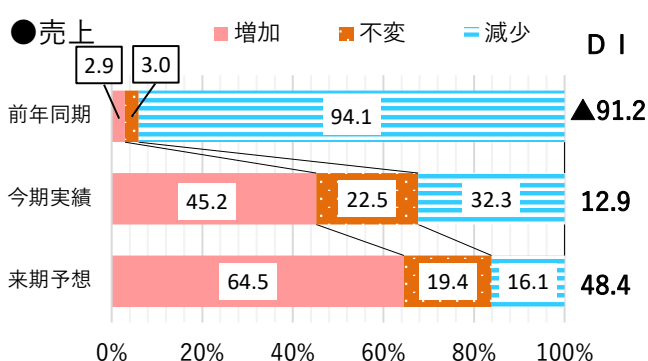
今期（2022.1～3）の業況判断DIは▲41.9で、前年同期(2021.1～3)と比べ40.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期（2022.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



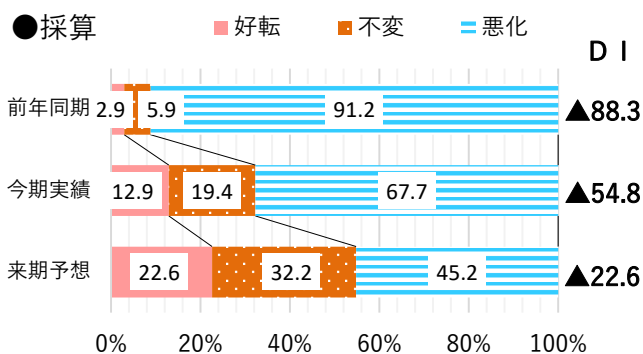
今期の売上DIは12.9で、前年同期と比べ104.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に強まると予想しています。

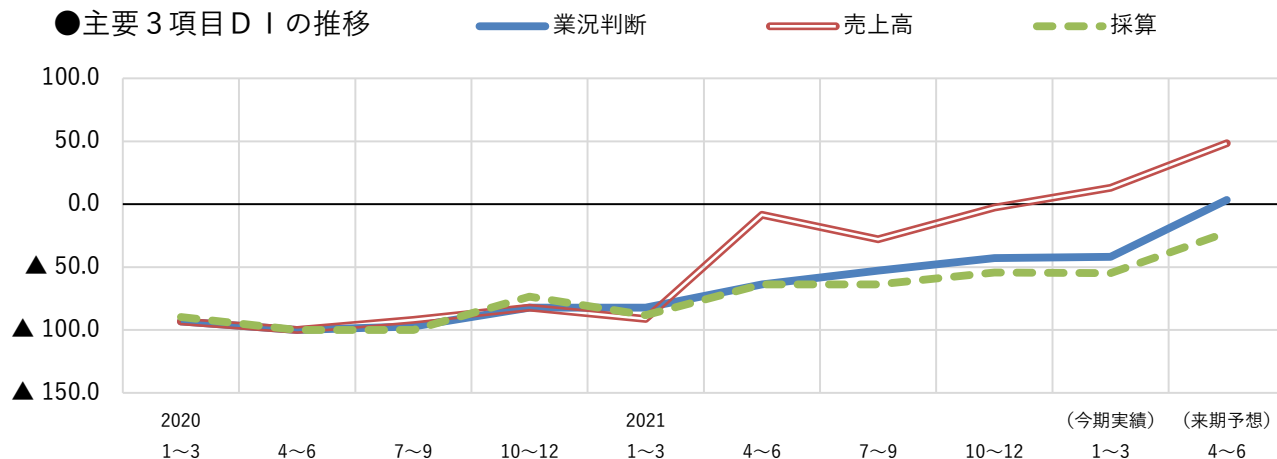


今期の採算DIは▲54.8で、前年同期と比べ33.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



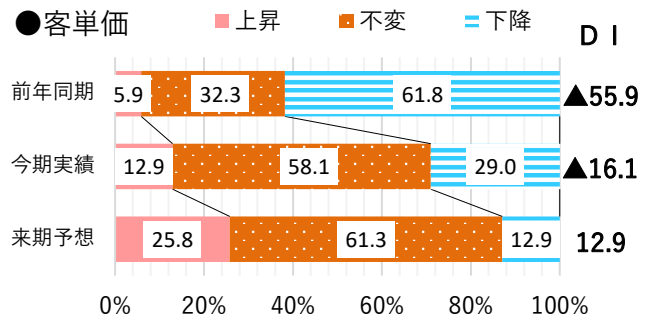
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

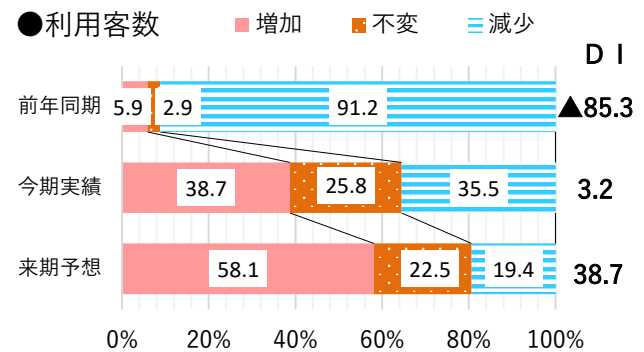
今期の客単価DIは▲16.1で、前年同期と比べ39.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



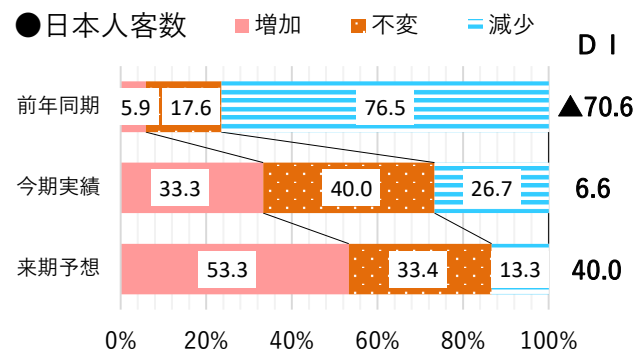
今期の利用客数DIは3.2で、前年同期と比べ88.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



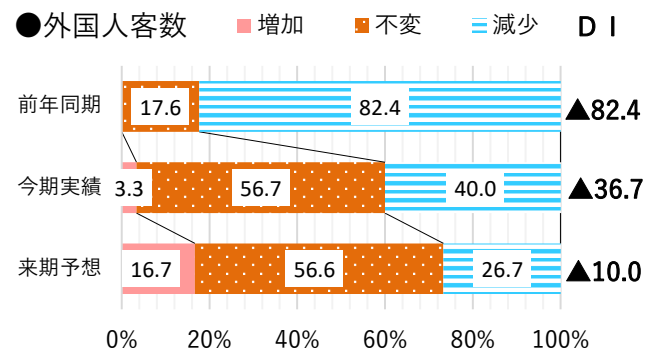
今期の日本人客数DIは6.6で、前年同期と比べ77.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲36.7で、前年同期と比べ45.7ポイントと大幅に上昇しました。

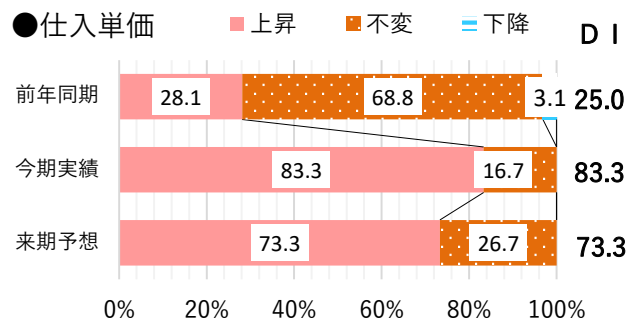
来期は、外国人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは83.3で、前年同期と比べ58.3ポイントと大幅に上昇しました。

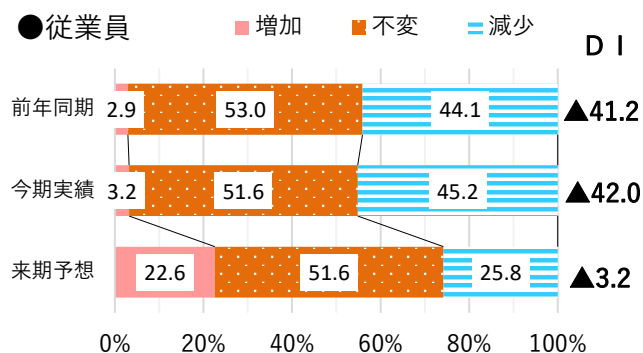
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



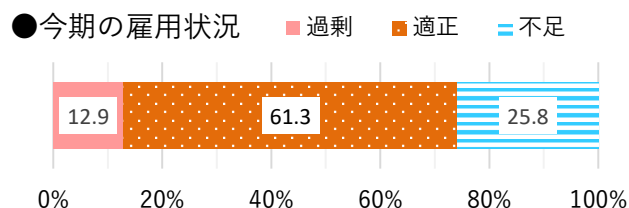
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲42.0で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は12.9%、適正であると回答した企業の割合は61.3%、不足していると回答した企業の割合は25.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の41.9%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	3
	適正	5
	不足	6

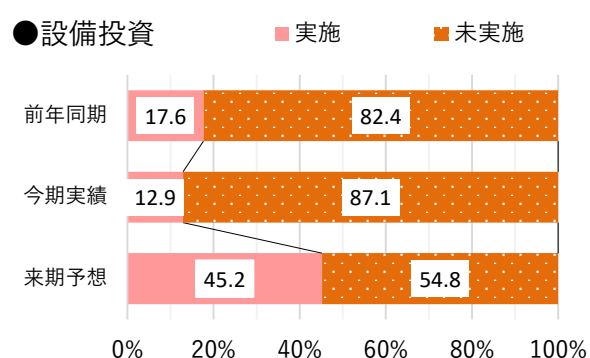
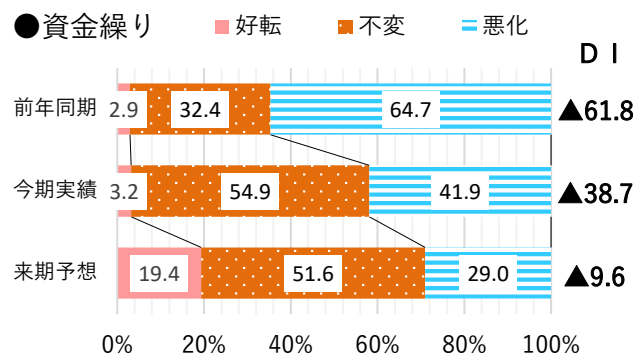
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲38.7で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は12.9%で、前年同期と比べて4.7%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「OA機器」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は45.2%で、大幅な増加を予想しています。

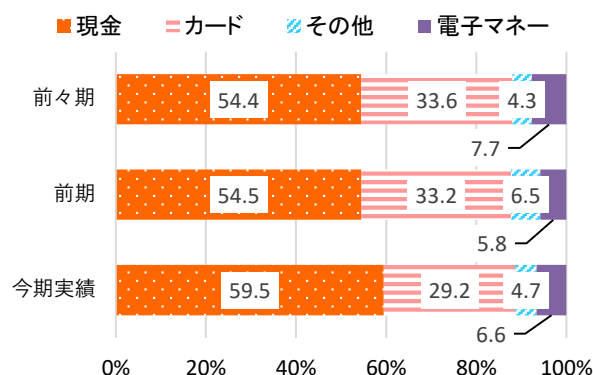


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で59.5%、2位がカードで29.2%、3位が電子マネーで6.6%、4位がその他で4.7%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイート等の食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込、ネット決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

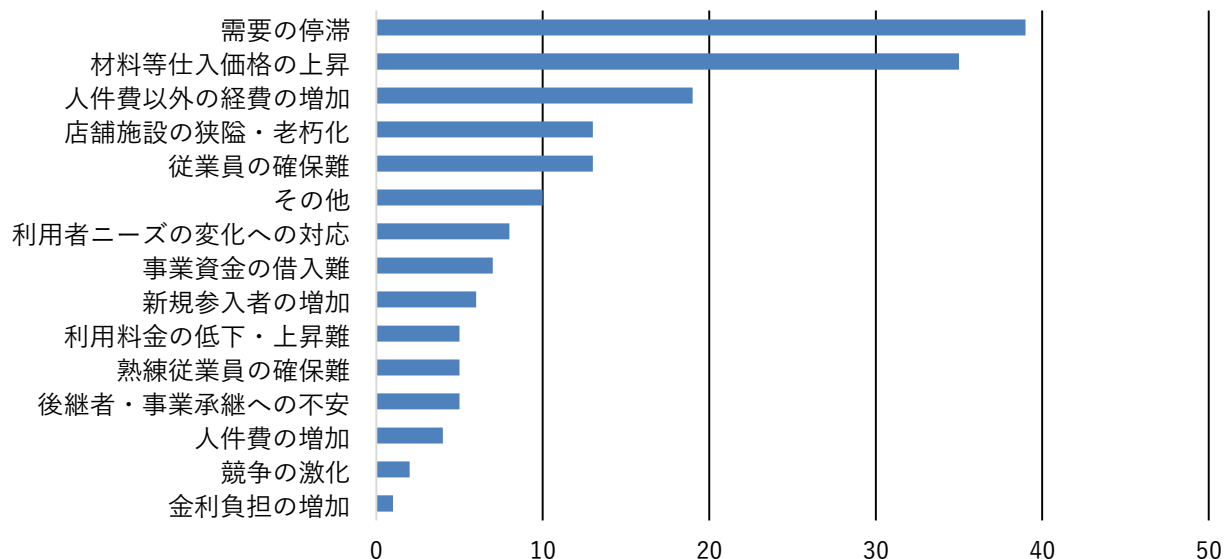


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は38.6%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍前と比べ、売上は30～40%程度落ち込んだ。元々客数に占めるインバウンドの割合は高くないため、インバウンドの減少よりも、国内客の減少による影響が大きいと思う。(ホテル)
- 新型コロナウイルスにより、団体宿泊客の予約がキャンセルとなった。小樽市の感染状況悪化に伴う外出控えにより、飲食部門も悪化した。(ホテル)
- 水道光熱費、ガソリン、その他仕入材料が値上がりした。今後も値上げが続くと思われる。宿泊や飲食による収益は不変だった。(ホテル)
- 通常通りの営業が難しい状況だが、国内客の増加と販路拡大、人員確保に取り組んだ。(ホテル)
- 宿泊は国内客が中心で、インバウンドの利用は無かった。人材の確保に苦戦している。(ホテル)
- ガソリンや灯油の仕入価格が高騰した。(コテージ・ペンション)
- イベント時の観光客や卒業旅行の学生等で人の動きは感じるが、厳しい業況に変わりはない。仕入価格が上昇傾向にあり、値上げせざるを得ない。(飲食)
- まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルスが終息しない限り厳しい状況が続く。(飲食)
- 販売価格に転嫁しきれないほど、仕入価格が上昇している。(飲食)
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、業況回復は難しい。(飲食)
- コロナ禍の影響で、売上は減少した。客数は少なく、客単価も下降している。諸物価が上昇した影響で、製造原価と販管費の増加が続いており、業績は厳しい。(土産品)
- ロシアとウクライナの戦争によって原油価格と運送料金が上昇し、仕入価格も高騰した。(土産品)
- 業況は改善傾向にあったが、新型コロナウイルスの再拡大により観光客が減少した。(土産品)
- ほぼ営業していなかった昨年同期と比べると売上や客数はプラスで推移した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響により、観光客が来ない。(土産品)
- 原材料費の高騰や、客数の減少が続いている。(土産品)
- 業況は悪化している。(土産品)
- 大雪の影響で事故が多く、代車としての利用が多かった。コロナ禍だが、道外客によるレジャー利用の件数は昨年同期より20%ほど増えており、好調だった。(レンタカー)

- 降雪量の増加で代車利用が増えた代わりに、一般利用が減少した。（レンタカー）
- 昨年10～12月は前年と比べ人流が回復していたが、1月上旬からオミクロン株が拡大し、利用者が激減した。（社会教育）
- 昨年同期はGoToキャンペーンの休止や、不要不急の外出自粛要請によって、1か月ほど休業していたが、その頃と比べると客数、売上ともに増加した。（水運業）
- 新型コロナウイルスの影響で、利用客が減少した。（船舶貸渡業）
- 前年同期比の売上や利用客数は増加したが、限定的だった。（娯楽業）
- 冬期のため動きが少なく、前年同期と変わらない。（娯楽業）

#### [来期の業況について]

- 人流抑制の緩和とインバウンドの増加により、需要の増加を見込んでいる。人員の確保は引き続き困難だと思われる。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの流行が弱まり、好景気に向かうと考えたい。（ホテル）
- GoToキャンペーンが再開されれば、道外需要が見込める。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの検査件数が減少し、陽性率が高い状況で人の移動が増えることで、ゴールデンウィークには感染が拡大するのではないかと不安に感じている。（コテージ・ペンション）
- コロナ禍、戦争、自然災害など、個人ではどうしようもない事柄が多く、業況は予想できない。（飲食）
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、業況回復は難しい。（飲食）
- 業況に大きな変化はないと思われる。（飲食）
- まん延防止等重点措置が解除されたことによる、客数の増加に期待する。経費の増加が続くので、収益の好転にはつながらないと予想する。コロナ禍も3年目に入り、経営環境は厳しいままだが、業況の好転材料が見つからず、すぐ先の予想も出来ないので、不安感が増すばかりだ。（土産品）
- 新型コロナウイルスの感染拡大に対し、即座にまん延防止等重点措置等の規制がされる状況が続くと、業況の回復は難しい。（土産品）
- 新型コロナウイルス感染者数の減少による、観光客数の増加に期待する。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響により業況は変動するため、予測は難しい。（土産品）
- 入学、卒業時期のため、人出の増加に期待したい。（土産品）
- 業況は不透明だ。（土産品）
- 先行きは不透明だが、道外客の利用増加を想定している。（レンタカー）
- レジャー利用の増加傾向が続くと思う。（レンタカー）
- まん延防止等重点措置の解除により、人流が回復するようお願いしている。（社会教育）
- まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス感染者が減少すれば、売上や客数の増加が期待できる。（水運業）
- コロナ禍が終息すれば、業況の回復が見込める。（船舶貸渡業）
- 繁忙期が終わり、売上や客数の減少が予想される。（娯楽業）
- 業況や売上の横ばいを予想する。（娯楽業）